

道徳科 児童生徒が「自分との関わりで考える」ためのポイント

道徳科の目標は、内面的資質である道徳性を養うことです。授業において、他人事ではなく自分事として考えられるようにすることで、学んだことが、児童生徒の今後の生き方に生かされるようになっていきます。これまでの経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深められるようにすることが大切です。

(指導例) 小学校第1学年及び第2学年 B友情, 信頼 主題名「助け合う心」 教材名「およげない りすさん」
ねらい「友達と仲よくし、互いに助け合っているという態度を育てる」

◆日常生活や学校生活等を想起しながら考える

T: 友達と一緒に仲よく遊んでいるときは、どんな気持ちですか。

S1: 楽しい気持ちです。

T: もし、友達と遊べなくなったら、どんな気持ちになりますか。

S2: 悲しい気持ちになります。



導入、展開、終末において、日常生活の中で誰もが経験するようなことや学校での共通体験を想起できるようにすることで、考えを深めさせていくことができます。

◆教材の問題点等を自分事として受け止めて考える

T: かめさんたちだけで島で遊んでいるとき、かめさんたちはどんなことを思っていたでしょう。

S2: りすさん、寂しいだろうな。りすさんと一緒に遊びたかったな。

S3: 仕方がないよ、りすさんは泳げないのだから。

T: 皆さんも、似たような気持ちになったことがあるかもしれませんね。S1さんはどう思いますか。

S1: かめさんたちも、もやもやして楽しめないと思います。

T: どうしてそう思ったのですか。

S1: 私も、友達に悪いなと思いながら遊んでいて、楽しめないことがあったからです。



本時のねらいとする道徳的価値について児童の実態を把握し、授業の中で意図的に指名しながら自分との関わりで考えられるようにすることもできます。

◆自分だったらどうするかなど考える

T: 皆さんがかめさんだったら、どうしますか。

S2: 私だったら、一緒に仲よく遊べる方法を考えます。

T: どうしてそう思うのですか。

S2: 一人でも楽しくないと思っている友達がいると、私も楽しめないからです。

教材等の登場人物の気持ちに共感することにとどまらず、自分の体験から表現できるような問い掛けや、そのときの気持ちや感じ方を問うことも効果的です。

◆教材の登場人物に自分を置き換えて考える

T: 次の日、りすさんと会ったとき、何と言いますか。

＜かめさん役になって、即興的な台詞による役割演技＞

T: りすさんを背中に乗せて島に向かっていているとき、かめさんはどんな気持ちだったでしょう。

S1: 早く、りすさんと一緒に遊びたいな。

S3: やっぱ、みんな一緒だと楽しいな。



登場人物の言動を即興的に演技して考える役割演技等を通じて学んだ内容から、考えを深めさせることができます。

◆自分の生活を見つめ、振り返りながら考える

T: 友達と一緒にいて、楽しかったことやうれしかったことについて、教えてください。

児童がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりできるような場と時間をしっかりと確保することが必要です。

「自分との関わりで考えること」を通して、道徳的価値の理解と同時に自己理解を深め、道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになります。

